

茨城県景気ウォッチャー調査結果の推移について

本県では、景気ウォッチャー調査を平成14年12月から実施しております。今回、調査開始時からの現状判断DI※及び先行き判断DI※の推移をまとめましたので報告します。

1 調査の目的

- ・経済の第一線で働いている人々から、景気に関する生の情報を得ます。
- ・景気に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに、迅速に公表します。
- ・県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料となります。

2 調査の概要

- ・調査客体数…県内各地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとの60名、計300名です。
- ・調査内容…景気の実況、先行き判断とその判断理由を質問します。
- ・調査時期…四半期（6、9、12、3月）ごとに実施し、翌月公表します。

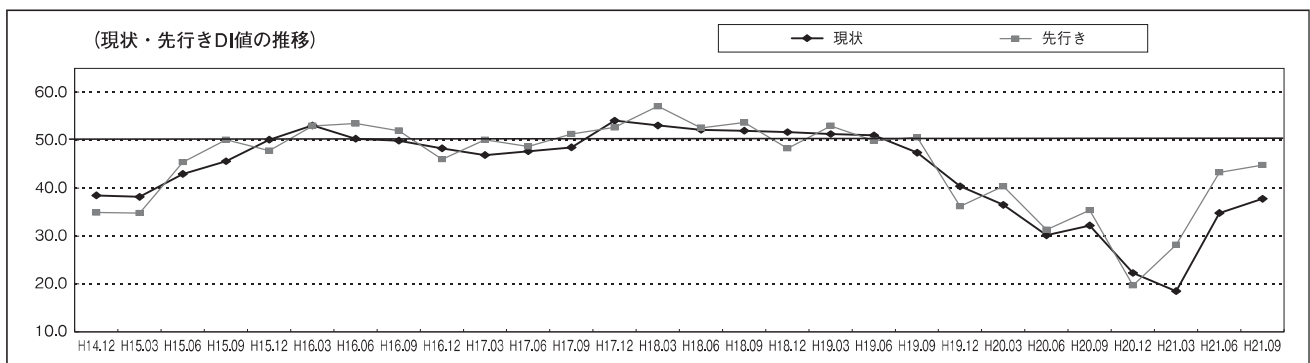
※DI（Diffusion Index）…景気動向を判断するために使用される指標の一つであり、景気の方角性（景気が上向きか下向きか）をみるもので、50が横這いを表しています。

よって、DIが50を上回れば前回調査時よりも景気は上向き、下回れば前回調査時よりも景気は下向きであることを示します。

3 調査結果の推移について

- ・現状判断DIについては、平成15年12月調査時に調査開始以来初めてDIが50を超え、平成16年6月調査までその水準を維持したものの、平成16年9月調査時に再び50を下回り景気は後退局面となりました。平成17年12月調査時には、DIは過去最高値の54.1となり、その後平成19年6月調査時まで50を上回り景気は上昇局面となりました。その後、DIは後退を続け平成21年3月調査時には、DIは過去最低値の18.5となり、最新の平成21年9月調査時では37.8となっています。
- ・先行き判断DIについては、平成15年9月調査時に調査開始以来初めてDIが50を超え、平成19年9月調査時までほぼ横這いで推移してきましたが、平成19年12月調査時に36.2を記録し後退局面を向かえ、平成20年12月調査時には過去最低値となる19.7を記録しました。その後も停滞局面を抜け出せず、最新の平成21年9月時の調査では44.8となっています。

	H14.12	H15.03	H15.06	H15.09	H15.12	H16.03	H16.06	H16.09	H16.12	H17.03	H17.06	H17.09	H17.12	H18.03	H18.06	H18.09	H18.12	H19.03	H19.06	H19.09	H19.12	H20.03	H20.06	H20.09	H20.12	H21.03	H21.06	H21.09	最大値	最小値	
現状	38.5	38.2	43.0	45.6	50.1	53.1	50.3	49.9	48.3	46.9	47.7	48.5	54.1	53.1	52.2	52.0	51.7	51.3	51.0	47.4	40.4	36.5	30.2	32.2	22.3	18.5	34.8	37.8	54.1	18.5	
先行き	34.9	34.8	45.4	50.1	47.8	53.0	53.5	52.0	46.0	50.1	48.7	51.3	52.7	57.1	52.6	53.7	48.3	53.0	49.9	50.6	36.2	40.4	31.3	19.7	28.2	43.3	44.8	57.1	19.7		
主な出来事		イラク戦争開戦			第二次小泉内閣発足	鳥インフルエンザ発生				愛知万博開幕		衆議院選挙で自民党大勝（郵政選挙）				安倍内閣発足	景気拡大が「いざなぎ景気」超え			福田内閣発足	景気が後退局面へ			麻生内閣発足	米リーマン・ブラザーズ破綻	GDPが戦後最大のマイナス成長	日経平均株価が戦後最大値を更新	衆議院選挙で民主歴史的圧勝	鳩山内閣発足		





平成20年度 茨城県の児童・生徒の体格と疾病について

I 調査の概要

学校保健統計調査は、学校における児童、生徒及び幼児（以下、「児童等」という。）の発育及び健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的とし、平成20年4月1日から6月30日までの間に実施された学校保健法による健康診断の結果に基づき調査しています。

1 調査の範囲

小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び幼稚園のうち、文部科学大臣があらかじめ指定する学校（以下、「調査実施校」という。）171校を調査します。

2 調査の対象

満5歳から満17歳までの児童等の一部（抽出調査）。

- ・発育状態……調査実施校に在籍する児童等のうちから年齢別男女別に抽出された者
- ・健康状態……調査実施校に在籍する全児童生徒

3 調査事項

(1)児童等の発育状態

身長、体重、座高

(2)児童等の健康状態

栄養状態、脊柱・胸郭の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患・皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、寄生虫卵の有無、その他の疾病・異常の有無、結核に関する検診の結果

II 調査結果の概要

〈A 発育状態〉

1 身長・体重・座高の茨城県平均値

(1)身長

男子の身長は、6歳、8～11歳、13～15歳で前年度より伸びている。各年齢間の身長差は、12歳と13歳の間が7.0cmと最も大きく16歳と17歳の間が0.9cmと最も小さくなっています。なお、11歳の145.9cmは過去最高となっています。

女子の身長は、6～7歳、9歳、14～15歳、17歳で前年度より伸びています。各年齢間の身長差は、8歳と9歳の間が6.6cmと最も大きく、15歳と16歳の間が0.1cmと最も小さくなっています。

また、9歳で0.2cm、10歳で1.0cm、11歳で0.8cm、女子の身長が男子の身長を上回っています。

(表1)

表1 男女別年齢別 身長（平均値）—茨城県

(単位：cm)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
男	20年度	110.7	117.1	122.5	128.4	133.8	139.3	145.9	152.6	159.6	165.4	168.7	169.7
	19年度	111.0	116.7	123.0	128.3	133.7	138.8	145.2	153.0	159.5	165.2	168.4	170.0
	差	△0.3	0.4	△0.5	0.1	0.1	0.5	0.7	△0.4	0.1	0.2	0.3	△0.3
女	20年度	109.7	115.9	121.6	127.4	134.0	140.3	146.7	151.9	154.6	156.7	157.3	157.4
	19年度	110.0	115.3	121.3	127.6	133.7	140.7	147.3	152.2	154.9	156.2	157.1	158.2
	差	△0.3	0.6	0.3	△0.2	0.3	△0.4	△0.6	△0.3	△0.3	0.5	0.2	△0.8

(2)体 重

男子の体重は、6歳、8～11歳、13歳、で前年度より増えています。各年齢間の体重差は、14歳と15歳の間が5.7kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.8kgと最も小さくなっています。

女子の体重は、6～7歳、9歳、11歳、14～15歳、17歳で前年度より増えています。各年齢間の体重差は、10歳と11歳の間が6.0kgと最も大きく、16歳と17歳の間が0.6kgと最も小さくなっています。

また、11歳では0.3kg、女子の体重が男子の体重を上回っています。(表2)

表2 男女別年齢別 体重(平均値)ー茨城県

(単位: kg)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男	20年度	19.4	21.9	24.5	28.1	31.7	35.2	40.4	45.4	50.1	55.3	61.0	62.6	63.4
	19年度	19.6	21.6	24.8	27.9	31.2	34.7	39.1	45.5	49.8	55.4	61.2	62.7	64.2
	差	△0.2	0.3	△0.3	0.2	0.5	0.5	1.3	△0.1	0.3	△0.1	△0.2	△0.1	△0.8
女	20年度	19.0	21.6	23.8	26.8	31.2	34.7	40.7	45.2	47.9	50.9	52.9	53.6	54.2
	19年度	19.2	20.9	23.4	27.0	30.5	35.2	39.9	45.3	48.0	50.6	52.3	54.4	53.8
	差	△0.2	0.7	0.4	△0.2	0.7	△0.5	0.8	△0.1	△0.1	0.3	0.6	△0.8	0.4

(3)座 高

男子の座高は、6歳、8～11歳、14歳で前年度より伸びています。各年齢間の座高差は、13歳と14歳の間が3.6cmと最も大きく、16歳と17歳の間が0.7cmと最も小さくなっています。

女子の座高は、6～9歳、14歳、17歳で前年度より伸びています。各年齢間の座高差は、10歳と11歳の間が3.4cmと最も大きく、14歳と15歳、15歳と16歳の間が0.1cmと最も小さくなっています。

また、10歳で0.9cm、11歳で1.2cm、12歳で0.7cm、女子の座高が男子の座高を上回っています。

(表3)

表3 男女別年齢別 座高(平均値)ー茨城県

(単位: cm)

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
男	20年度	62.0	65.1	67.8	70.5	73.0	75.1	78.2	81.3	84.7	88.3	90.1	90.9	91.6
	19年度	62.2	64.9	67.8	70.4	72.6	74.8	77.8	81.7	84.9	88.2	90.1	91.0	91.7
	差	△0.2	0.2	-	0.1	0.4	0.3	0.4	△0.4	△0.2	0.1	-	△0.1	△0.1
女	20年度	61.5	64.6	67.4	70.1	73.0	76.0	79.4	82.0	83.6	84.9	85.0	85.1	85.6
	19年度	61.6	64.2	67.1	70.0	72.8	76.3	79.7	82.4	83.9	84.8	85.2	85.5	85.4
	差	△0.1	0.4	0.3	0.1	0.2	△0.3	△0.3	△0.4	△0.3	0.1	△0.2	△0.4	0.2

2 全国値との比較

身長を全国平均値と比較してみると、男子は6歳、8～11歳、15歳で、女子は6歳、9歳、14歳で全国平均以上になっています。

体重は、男子・女子とも各年齢で全国平均以上になっています。

座高は、男子は6～11歳、14歳で、女子は7～9歳、11歳で全国平均以上になっています。(表4)

表4 男女別年齢別 体格(平均値)〔全国値との比較〕

区 分	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	
身長 (cm)	茨城県	110.7	117.1	122.5	128.4	133.8	139.3	145.9	152.6	159.6	165.4	168.7	169.7	170.6
	全国	110.8	116.7	122.5	128.2	133.7	138.9	145.3	152.6	159.8	165.4	168.3	170.0	170.7
	差	△0.1	0.4	-	0.2	0.1	0.4	0.6	-	△0.2	-	0.4	△0.3	△0.1
体重 (kg)	茨城県	19.4	21.9	24.5	28.1	31.7	35.2	40.4	45.4	50.1	55.3	61.0	62.6	63.4
	全国	19.1	21.5	24.2	27.3	30.8	34.3	38.8	44.5	49.5	54.9	59.8	61.6	63.4
	差	0.3	0.4	0.3	0.8	0.9	0.9	1.6	0.9	0.6	0.4	1.2	1.0	-
座高 (cm)	茨城県	62.0	65.1	67.8	70.5	73.0	75.1	78.2	81.3	84.7	88.3	90.1	90.9	91.6
	全国	62.1	65.0	67.7	70.3	72.8	75.0	77.8	81.4	85.0	88.2	90.2	91.2	91.7
	差	△0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.4	△0.1	△0.3	0.1	△0.1	△0.3	△0.1
座高 (cm)	茨城県	61.5	64.6	67.4	70.1	73.0	76.0	79.4	82.0	83.6	84.9	85.0	85.1	85.6
	全国	61.6	64.6	67.3	70.0	72.8	76.0	79.3	82.2	83.8	84.9	85.4	85.6	85.8
	差	△0.1	-	0.1	0.1	0.2	-	0.1	△0.2	△0.2	-	△0.4	△0.5	△0.2

〈B 健康状態〉

1 むし歯（う歯）のある者の割合

むし歯のある者の割合（処置完了者を含む。以下同じ。）は、幼稚園52.9%、小学校69.5%、中学校61.6%、高等学校70.5%となっています。

前年度と比較すると、すべての各学校段階で前年度より低下していますが、すべての学校段階で罹患率が最も高い疾病・異常となっています。

全国と比較すると、すべての学校段階で全国平均を上回っており、幼稚園は2.6ポイント、小学校は5.7ポイント、中学校は5.6ポイント、高等学校は5.0ポイント全国平均を上回っています。

2 裸眼視力1.0未満の者の割合

裸眼視力1.0未満の者の割合は、小学校26.9%、中学校51.2%となっており各学校段階の疾病・異常でむし歯に次いで上位を占めています。

前年度と比較すると、小学校、中学校では前年度より上昇しています。

全国と比較すると、小学校は3.0ポイント、中学校は1.4ポイント全国平均を下回っています。

年齢別にみると、1.0未満の者の割合が年齢が進むにつれて高くなり、それに伴い0.3未満の者の割合も高くなっています。

3 鼻・副鼻腔疾患の者の割合

鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、幼稚園0.8%、小学校5.5%、中学校5.5%、高等学校2.7%となっています。

前年度と比較すると、幼稚園は前年度より低下しているが、小学校、中学校、高等学校とも前年度より上昇しています。

全国と比較すると、すべての学校段階で全国平均を下回っています。

年齢別にみると6歳が7.3%と最も高くなっており、6～15歳の各年齢で4%を超えています。

4 ぜん息の者の割合

ぜん息の者の割合は、幼稚園2.2%、小学校4.0%、中学校2.9%、高等学校1.7%となっています。

前年度と比較すると、高等学校では前年度より上昇しています。

全国と比較すると、小学校は0.1ポイント全国平均を上回っており、幼稚園は0.5ポイント、中学校と高等学校は0.1ポイント全国平均を下回っています。

年齢別にみると、6歳が4.8%と最も高くなっており6～12歳の各年齢で3%を超えています。

表5 学校別段階 主な疾病・異常の者割合 (%)

区 分	むし歯の者の割合			裸眼視力1.0未満の者の割合			鼻・副鼻腔疾患の者の割合			ぜんそくの者の割合			
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	
幼稚園 (5歳)	茨城県	52.9	53.4	52.3	X	X	X	0.8	0.8	0.9	2.2	3.1	1.2
	全 国	50.3	51.3	49.2	28.9	28.2	29.7	3.8	4.6	3.0	2.7	3.4	1.9
	差	2.6	2.2	3.1	△3.0	△3.8	△2.1	△0.5	△0.3	△0.7
小学校	茨城県	69.5	71.0	67.9	26.9	23.3	30.7	5.5	6.8	4.1	4.0	4.8	3.0
	全 国	63.8	65.2	62.3	29.9	26.9	32.9	11.9	14.7	9.0	3.9	4.8	3.0
	差	5.7	5.8	5.6	△3.0	△3.6	△2.3	△6.4	△7.8	△4.8	0.1	0.0	0.0
中学校	茨城県	61.6	60.0	63.2	51.2	45.3	57.5	5.5	6.5	4.5	2.9	3.6	2.1
	全 国	56.0	54.0	58.1	52.6	48.1	57.3	10.8	12.5	9.1	3.0	3.5	2.4
	差	5.6	6.1	5.1	△1.4	△2.8	0.2	△5.3	△6.0	△4.6	△0.1	0.1	△0.3
高等学校	茨城県	70.5	68.8	72.4	X	X	X	2.7	3.1	2.3	1.7	2.0	1.5
	全 国	65.5	63.4	67.7	58.0	53.7	62.4	8.8	10.0	7.6	1.8	2.0	1.6
	差	5.0	5.4	4.7	△6.1	△6.9	△5.2	△0.1	0.0	△0.1

「X」は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下のため統計数値を公表しない。

5歳、15～17歳は疾病・異常被患率等の標準誤差が5%以上、受検者数が100人（5歳は50人）未満または回答校が1校以下で、統計数値を公表していないため表示していない。

詳しい情報は、いばらき統計情報ネットワーク <http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/> でご覧いただけます。